

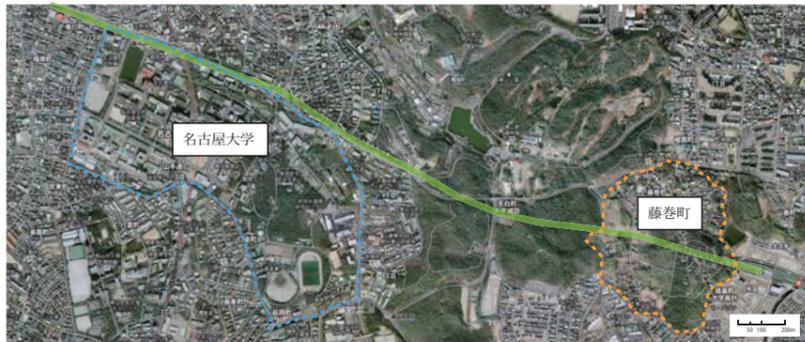
都会のオアシス藤巻町：住民と自然が共生する新しい里山づくり

「藤巻の緑を守り藤巻町の将来を考える会」



藤巻町はこんなところ

名古屋大学←→藤巻町 直線距離=約 1.2km
東山公園動植物園の東南に隣接した「長期未整備公園緑地」内にある町



藤巻町の自然

樹林地



近隣地区市民の散策スポットとして親しまれている

水辺



町域東縁にある「新池」には季節の野鳥が立ち寄る

動植物



庭で季節の野鳥や昆虫など生物との出会いが楽しみ

農地・果樹園



私有地で営まれる農地・果樹園・竹林などが季節の風景を豊かに構成している

藤巻町の基本事項

都市計画：第1種低層住居専用地域
(高さ制限 10m, 建蔽率 30%, 容積率 50%)
第1種風致地区
長期未整備公園緑地(宅地型)
地形：面積 302,597 平方m 標高約 32 ~ 68m
土地利用：樹林地 約 50% 宅地 約 22%
空閑地 約 11% 道路 約 8%
住民：世帯数 173 人口 416 人(平成 24 年 4 月)
年齢構成：65 歳超 34.6% 居住年数 30 年超 46.8%

都心へのアクセス：地下鉄「星が丘」駅←→「藤巻」交差点 1.3km 車で 5 分
←→「荒池広場」 2.1km 車で 7 分
「名古屋」駅←地下鉄→「星が丘」駅 20 分

住民意識：☆自然環境や風致・景観について →気に入っている 91%
☆町の将来について →町の永続を望む 87%
☆緑の保全について →土地利用規制を受容可 81%
☆保護活動への参加意欲について →体力他事情可能なら OK 47%
(平成 23 年 2 月 住民アンケートによる)

住環境

良いところ
●自然豊かな住環境
●地形変化のある景観と風致
●都心に近い利便性



悪いところ
●樹林地の荒廃と管理不良
●丘陵部の道路舗装と住インフラの未整備
●公共交通機関へのアクセス不便



住民の活動

行政と折衝活動



平成 23 年 5 月
都市計画見直し「要望書」を提出

森づくり活動



平成 23 年 4 月東山の森づくりの会に参加し「藤巻班」を発足
高速道路上の市有地の植生環境改善に取り組み中

住民勉強会



住民のオープン参加で毎月開催
自治会を通じて全住民へ進捗報告

名古屋市との勉強会



行政と住民との意思疎通に資する場として適宜開催

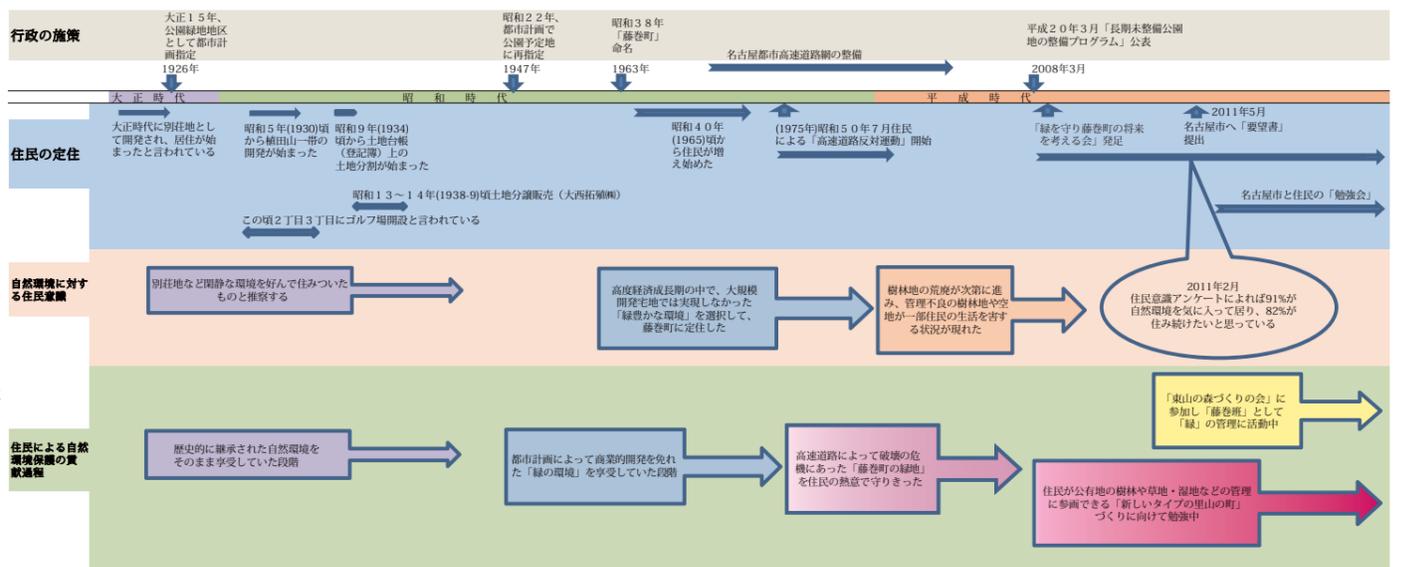
まちづくりワークショップ



名古屋大学大学院環境学研究所村山研究室のご指導下で住民によるまちづくりワークショップ

町の歴史

- 住民定住の動機：都心に近い利便性の下で「緑」と共に暮らしたい
静かな環境ときれいな空気
恵まれた文教環境
- 都市計画：公園緑地地区の指定(大正 15 年)
平成 20 年 3 月「長期未整備公園緑地の整備プログラム」で第 3 期整備着手地区に指定
- 高速道路反対運動：昭和 50 年代、名古屋都市高速道路網整備計画に際して、環境保護のため住民運動をした結果、現在の高速道路トンネル上帯の緑地保全に貢献した
- 環境保全活動：名古屋東山の森づくりの会に参加
平成 23 年 4 月「藤巻班」を結成し活動中
- 町存続のための運動：「都市型の新しい里山の町」づくりの実現を目指し、現在活動中



高速道路反対運動——藤巻町まちづくりの原点

藤巻町を半地下（一部は高架）で縦断する高速道路（四谷～高針ルート）計画は、藤巻の森を分断し、藤巻のみならず「東山の森南部域」の環境を悪化させる可能性があった。藤巻町民の反対運動は、東山公園区域内道路の「完全トンネル化」と「気流を考慮した排気塔」の実現の原動力となり、「住民生活」と「東山の森」の環境保全にある程度の効果があった。

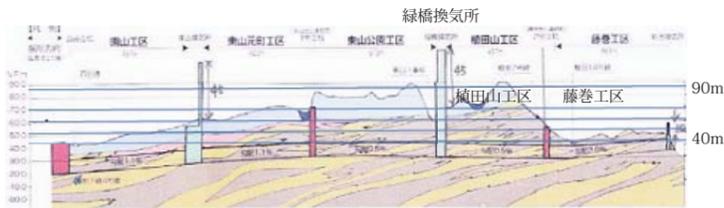


「静かな環境を守り高速道路に反対する会」の総会 (S51年5月26日中日新聞)

高速道路（四谷～高針ルート）建設の経過

- 昭和48年：都市計画決定（公示）原案ルート（右図原案）
- 昭和50年：変更素案を市議会に提示（右図変更素案）
藤巻町縦断（藤巻町内では半地下+高架の道路提示）
藤巻町での反対運動の開始 7月に陳情書提出
- 10月：“静かな環境を守り高速道路に反対する会”結成
- 昭和51年：都市計画変更（公示）（四谷～高針のルートを保留）
- 平成3年：都市計画変更（公示）（四谷～高針のルート決定）
- 平成15年：四谷出入口-高針JCT 開通。

東山の森を縦断する名古屋市道高速1号四谷高針線概要



東山トンネル断面図

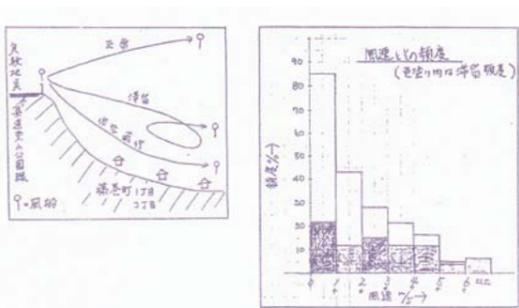
藤巻町民の具体的な反対運動（環境調査） 地道な環境調査が現在の“里山づくり”につながる。

藤巻町の高速道路反対運動の主な活動

- ① 住民のアンケート調査 (94% が反対)
- ② 市への多数回の陳情書及び公開質問状提出
- ③ 環境調査（風船揚げ気流調査・井戸水調査 野鳥調査等）
- ④ 名東区民集会（名古屋主催）で緑化推進と自動車道推進との矛盾を訴える。
- ⑤ 市との勉強会（環境影響調査の結果をめぐる）



風船揚げによる気流調査風景



気流調査による大気の流れのデータ

風船揚げによる気流調査

- 昭和51年3月
 - ・風船揚げによる気流調査開始（緑橋 曙橋 新池）
- 昭和52年3月
 - ・風船の大量降下を確認
- 昭和53年3月
 - ・公社によるガス拡散調査
- 昭和53年12月
 - ・公社によるガス拡散調査結果説明
- 昭和54年3月
 - ・風船揚げ気流調査3年分の結果まとめ
 - ①54% 滞留。強風でも滞留有
 - ②2～3回/月 危険な日有り
- 昭和54年4月
 - ・市との気流調査勉強会
- 昭和57年11月
 - ・市、公社と環境影響調査勉強会



環境影響調査勉強会の記事（昭和57年11月16日中日新聞）

守りぬかれた東山トンネル上部の森と藤巻町



藤巻の森全景



東山公園～藤巻の森（高速道路全景）



高速道路（トンネル）上部



高速道路・藤巻出入口遠景（後方藤巻の森）



高速道路・藤巻出入口近景（後方藤巻の森）



高速道路・藤巻出入口

将来への取り組み

「住民と自然が共生する新しい里山」づくり

- 住民と行政が知恵を絞って解決を目指す
- 学界からの関心・支援を期待

大都会の中心部近くに存在し、都市市民である住民と自然が共存する里山の町をつくる

解決すべき主な課題

- 住宅地のあり方：
 - 「風致地区」と「緑を守る制度」の下で住宅や庭を「里山」にふさわしいものとする
- 住民参加による緑の保護活動：
 - 住民はボランティア団体や行政と協働して緑の維持・保全・復活のための行動をする
- 制度上の課題：
 - 「長期未整備公園緑地」整備の方法として「無人の里山公園」ではなく「住民が居る都市型の里山」の実現性について住民と行政が建設的に研究する
- 活動内部の課題：
 - 住民意思の結束と調整
 - 住民内部・不在地権者および一般市民との利害調整

